



学校だより

令和7年9月号(その2)

誠の花

発行 令和7年9月2日

かつらぎ町立渋田小学校

かつらぎ町東渋田 151-1

TEL 0736-22-2004

【教育目標】 ひとつも自分も大切に作る心を持ち 互いに高め合う子どもの育成

全ての子供の学力向上をめざして

～全国学力・学習状況調査結果分析と取組～

令和7年4月17日に、全国の小学校6年生及び中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。小学校では、国語、算数、理科の3教科と、児童質問紙調査（学校や家庭での生活・学習に関する状況調査）が実施されました。

本調査の目的は次のとおりです。

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

一人一人に確かな学力を身に付けることは、学校の使命です。本校では、結果の分析を行うとともに、課題改善の方策について協議し取組を進めています。

令和7年度全国学力・学習状況調査結果分析

国語、算数、理科ともに全国平均を上回りました。次の表は、各教科の内容・領域別に、本校と全国の平均正答率の差を表したものです。

※上回る：◎(+5%以上)、○(+1%以上+5%未満)

同程度：＝(−1%未満～+1%未満)

下回る：△(−1%以上−5%未満、▲−5%以上)

教科	内容・領域	差
国語	言葉の特徴や使い方に関する事項	＝
	情報の扱い方に関する事項	◎
	我が国の言語文化に関する事項	◎
	話すこと・聞くこと	◎
	書くこと	◎
	読むこと	◎
算数	数と計算	◎
	図形	◎
	測定	◎
	変化と関係	◎
	データの活用	◎
理科	エネルギー領域	◎
	粒子領域	◎
	生命領域	◎
	地球領域	◎

【国語】 ○：成果 △：課題 (学習学年)

○情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する。(5年)

○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える。(5年)

△書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える。(3・4年)

△目的に応じて文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける。(5年)

【算数】 ○：成果 △：課題 (学習学年)

○二次元表から条件に合った項目を選ぶ。(3年)

○伴って変わる二つの数量に着目し、必要な数量を見いだす。(3・4・5年)

△数直線上で示された数を、1の目盛りに着目して分数で表す。(3年)

△はかりの目盛りを読む。(3年)

△「10%増量」は、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍かを表す。(5年)

【理科】 ○：成果 △：課題 (学習学年)

○乾電池2個の直列つなぎがわかる。(4年)

○発芽の条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法がわかる。(5年)

△アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがわかる。(3年)

△水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けて理解する。(4年)

【児童質問紙】

質問は全部で77項目ありましたが、ほとんどの項目で肯定的な回答の割合が全国平均を上回りました。子供たちが、学校や家庭での生活や学習に満足し、自分を肯定的に捉えることができていることと、前述の学力状況の結果とは、密接に関係していると捉えています。

□全国平均と比較して特によい項目

- 自分にはよいところがあると思う。
- 先生は、自分のよいところを認めてくれる。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 学校に行くのは楽しいと思う。
- 友達関係に満足している。
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫している。
- 読書が好きである。
- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいた。
- 学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。

□全国平均と比較して気になる項目

- △5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか。(週1回以上が9.1%)
- △算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。

△小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしている。

△理科の勉強は好きである。

全校で取り組んでいる(取り組んでいく)こと

全ての学年で、基礎学力の定着を図り、授業改善を進めていきます。また、複式や少人数のよさを生かした学習指導を追究します。

◆基礎学力の定着

- *朝学習(読解ドリル、スピーチ・質問、聞くトレーニング)
- *聞き方スキルの系統の作成・活用
- *漢字の定着(50問テスト)
- *語彙の習得(学習用語・語彙集・国語辞典の活用)
- *補充学習(個別の課題に応じた指導)
- *Eライブラリ(タブレット学習)や計算ドリル等による繰り返し練習
- *家庭学習の充実(学年に応じた質と量、自主学習)

◆授業改善

- *子供が主体的に学習できるよう指導方法の工夫・改善を行い、複式及び少人数学習を充実させる。
- *授業において、指導事項を明確にした「めあて」を設定し、「振り返り」では子供が身に付いた力を言語化できるようにする。
- *ICT機器を効果的に活用した授業づくりを進める。
- *話したり聞いたりするスキルを各教科等で活用する場面を意図的に設定する。
- *条件に合わせて書く活動、自分の考えを説明する活動を充実させ、記述力や表現力を向上させる。
- *小数・分数・割合等の概念理解に重点を置き、操作・図示・数直線等で可視化する。
- *理科の授業を問題解決の過程となるように構成する。

◆読書習慣の定着と読書活動の充実

- *昼読書等の自由読書を推進し、読書ノート活用する。
- *授業において意図的な読書活動の場面を設定する。